

つみきのくらし

NO.33

日々の暮らしの中で、こども園つみきとして大切にしたいことや、こどもの素敵な姿をお伝えしていきます。



大浦 久子

『まねる』は『まなぶ』



学ぶという言葉は「真似る」(まねる)という言葉が語源にあると言われています。「真似る」→「まねぶ」→「まなぶ」という言葉の変化ばかりでなく、学びはまねをすることから始まります。園庭で遊ぶこどもたちの姿を見ていると、「本当にその通りだなあ」と感じる場面に度々出くわします。まねをするには、しっかり観察が必要ですが興味や関心がある子どもたちは、じーっと視覚で情報を吸収しているように感じます。

目の前の子は今、何を感じているんだろう?と想像することが楽しみの一つです! 大人がすべて教えるまでもなく、子どもたちは自ら学ぶ力を備えているのですね。



エピソード1

先日の園庭遊びの様子を紹介します!

「かきかきして～」と子どもたちのリクエストに保育者が歌をうたいながら絵を描いていきます。どんどん変化していく絵を周りにはいる子達はじーっと見ています。完成と同時に子どもの手が加わり、絵は消えてしまうのですが、「あーあ、きえちゃった」「もう一回かいて～」のやりとりを楽しんでいるようです。



エピソード2

だいじょうぶ?



転んでしまい、泣いている子がいました。周りにいた子はしばらく様子を見た後、ポンポンと汚れを叩きながら、「だいじょうぶ?」と声をかけてあげていました。自分が転んだ時、してもらったことを行動で表現した場面でした。

エピソード3

ぱんだ組の子たちが集まってサークルタイムを始めました。内容は「何の鬼ごっこをして遊ぶか」でした。子どもたちの中で話し合いをすることが楽しみの時間になりつつあり、みんな自分の意見を伝えていました。そこへ、うさぎ組の子が様子を伺いに来ました。じーっと様子を見た後、彼は一緒にいた友だちと小さなサークルタイムを始めました。彼らの目には、ぱんだ組の話し合いはどのような風に見えたのでしょうか。

今日は何の鬼ごっこをするか話しています。相手の話もしっかり聞いて、会話のキャッチボールが成立していたことに驚きでした

うさぎ組の子が話し合いの様子を聞いています。そして、じーっと見た後に彼がした行動は…

うさぎ組もミニサークルタイム始めました!
といっても、会話が進まずすぐ終わってしまいましたが「まねる」は「まなぶ」

